

徒然なる日記121024～本音を語る こと～

E-book推進協会

本音を語ること

本音を語れる相手はいるか。たとえば配偶者、たとえば親友。1人いれば十分、2人いれば幸せだと思ふべきだ。

本音を語るときは2つあると思う。相手を完全に信じきっているときか、酩酊し無防備である種自暴自棄になって何でもさらしだせるとき。

どちらにせよ、幸せな境遇と思う。語った後、賞賛、同意を得ることもあるだろうが、往々にして非難の対象となる。なぜか。本音をさらけ出す勇気はなかなか持てないものだから。

本音、本心を語る相手はいるか。あらためて自問する。ああ、自分にはいる。少ないながらもいてくれる。幸せなことだ。そして本音に対し冷静な批評をしてくれる。生きる意味を考え直すきっかけを得る。

十分だ。本音を語れるだけで十分だ。歳を取るほど言いづらくなる。正直に生きよう。非難、嫉妬、甘受しよう。全て生きる糧となり、ひいては社会のためになる。きっとそうだと信じ、生きる。

2012年10月24日記す（未校閲）